

「地域ITSのための通信システムの利活用に関する調査検討会」の概要 参考1

現 状

四国の中山間地域における道路状況は、地理的条件、財政事情等から1車線区間が多く車の離合が困難な道路や歩道の未整備箇所も多い。

1車線で車のすれ違いが困難な道路に対向車の接近を知らせる「中山間道路走行支援システム」を高知県と高知工科大学が連携して開発、中山間地道路の利便性・安全性を向上を目指して改良を続けている。

既に高知県15箇所、徳島県10箇所、愛媛県2箇所、岡山県2箇所、島根県1箇所、大分県1箇所を導入(今後も増加見込み大)

しかし、現在のシステムは有線方式なので草刈等によるケーブル破損、設置場所が限定される等の課題がある。

調査検討会では、既存の「中山間道路走行支援システム」に無線を利活用等、地域ITSの実用化に向けた検討を実施

検討(試験)結果

- ・中山間道路走行支援システムの無線利用に関する検討 (60MHz、150MHz、400MHz、2.4GHzの伝搬試験) → 400MHz帯が最適
- ・DSRCを用いた路車間通信に関する検討 → 対向車感知や音声案内が可能
- ・車車間通信に関する検討 → 700MHz帯車車間通信は、山間地のカーブ等多い中山間地でも連続的ではないものの利用可能有り

今後の予定等

- ・高知工科大学では、今回の検討結果をベースに平成20年度から無線利用システムを開発予定。
また、システムの将来計画として無線利用を利用した簡易型の中山間道路走行支援システム開発も検討中。
- ・当局は、高知工科大学及び高知県と連携し、平成21年度の無線利用システムの実用化に向けてサポート。

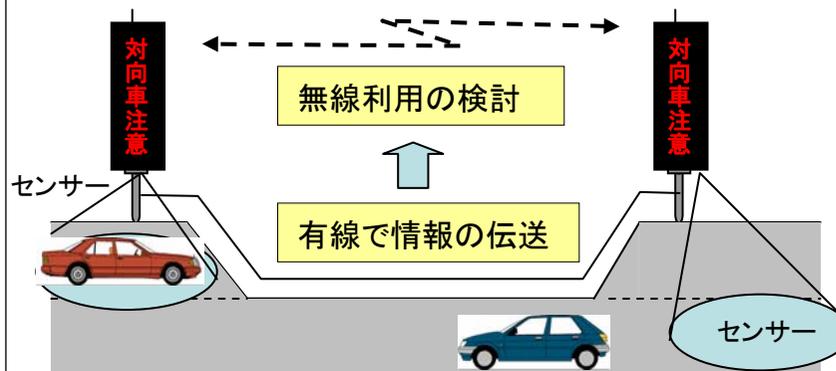
地域ITSのための通信システムの利活用に関する調査検討会の内容

既設の中山間道路走行支援システム(有線方式)

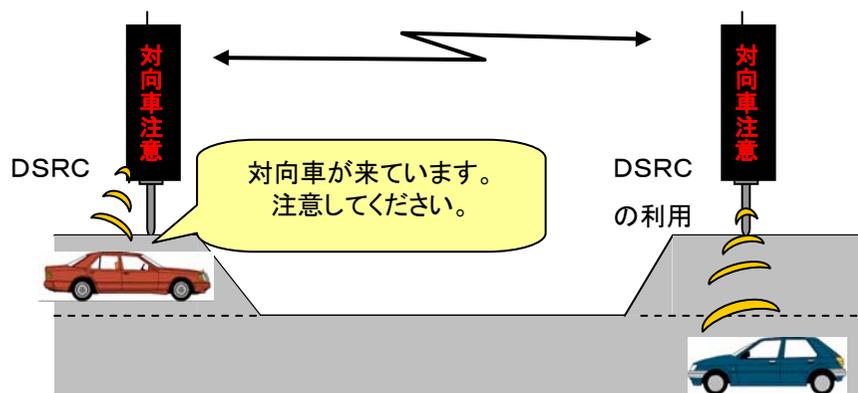


県道33号線(高知県高知市土佐山梶谷) 県道269号線(高知県南国市白木谷)

中山間走行支援システムの無線利用に関する検討



中山間地域におけるDSRCを用いた路車間通信に関する検討(運転手に音声で情報を提供)



中山間地域における車車間通信・人車間通信の活用に関する検討

